

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年11月30日
タイトル	日本一の生産量「くわい」を初出荷しました！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年11月14日（月）JA福山市川口グリーンセンターで、生産者約70人が集まり「くわい」が初出荷されその様子取材しました。

本年度くわい出荷組合では44戸が計約13haで栽培し、約140トンの出荷が見込まれています。

くわいの初出荷は福山の冬の風物詩となっていて、多くの報道機関も取材にいられて盛大なものとなりました。早朝より前日に収穫された「くわい」が次々に運びこまれ624箱、約2.5トンが出荷されました。検査員がひと箱ずつ検査し重さを量り「合格」の印を押しておられました。

出荷されたくわいは、東京、大阪、京都、奈良、九州に主に出荷されるそうです。特に食文化の歴史がふるい京都、大阪で大変人気があるそうです。



今年も迎えた初出荷に笑顔がこぼれます！



芽がピンと立派なくわい！

初出荷を祝って式典があり、くわい出荷組合の喜多村組合長が「10月の長雨でくわいが大きくなっていないようですが身がしまりホクホクとおいしいくわいとなっているようです。」と挨拶されました。また「土地改良区に出向き農業用水の確保をお願いしたところ、しっかりと配水すると力強く言っていただきましたのでみなさんは用水を無駄にしないよう節水に心がけて大事に使いましょう。」言われました。

取材をしていると何人もの組合員に声をかけていただき「しっかりと水を送ってくれよ。」と言われる方もおられました。用水の重要性を肌で感じ「しっかりと取水配水します。」とお答えしました。



年末まで体に気をつけて収穫してください！



報道陣の取材を受ける喜多村組合長！

式典後、生産者に出荷基準を実物のくわいを使って説明されました。色が青くなくピンク色のものや形がいびつなもの、芽がこけたものは加工用になります。収穫・洗浄・選別と女性も作業をされる方が多いそうで女性生産者も多く参加され熱心に聞いておられました。



女性生産者に話を伺いました。

「力仕事で汗をかくけど足はずっと水の中だからものすごく冷える。何枚もカイロを貼るんよ。」

「選別の見本をカメラに撮って帰るんよ。特に色の選別が難しいんよ。」「くわいの収穫は仕事というより宿命みたいに思ってるんよ。」など色々とお話してくださいました。女性たちの「くわい」に対する思いが単なる職業を超えたものを感じ「冬場の厳しい収穫をやりぬくぞ!」という意気込みで「農業女子」の目が輝いていました。

くわいの収穫は、水を張ったくわい畑に入り水中ポンプの水圧で土の中からくわいを浮かせ、それを網などですくい取ります。そうやって収穫したくわいは、水で洗浄し大きさや色、芽が欠けていないか選別し箱に詰めて出荷されます。これから寒さが厳しくなり収穫作業が益々過酷になります。健康には充分気をつけて収穫をしてほしいと思います。

水土里ネット福山では、くわい収穫のために水利権を得ている期間の農業用水の安定確保はもとより福山市の特産物である「くわい」や農業用水や土地改良施設の重要性を発信し、より一層に21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。